

「競技規則の変更点の概略」のポイント

2005. 4. 4

山口県バスケットボール協会 審判委員会

※名称の変更 スコアラー → スコアキーパー
アシスタント・スコアラー → アシスタント・スコアキーパー

(1) 前半に攻撃するのは相手ベンチ側のバスケットになった

今までとは逆の方向に攻撃することになる。ゲーム前やハーフ・タイムにウォームアップをする場所も今までの逆になる。

(2) ジャンプ・ボールはゲーム開始時の1回だけになった

第2ピリオド以降（延長を含む）はすべてオルタネイティング・ポゼッション・ルールによるスロー・インで始められる

(3) 相手チームのヴァイオレイションでも交代ができるようになった

ファウルでもヴァイオレイションでも審判が笛を吹けば、どちらのチームもタイム・アウトや交代ができるようになった

(4) 各ピリオドの間（インタヴァルまたはハーフ・タイム）に交代する場合も、スコアキーパーに申し出ることになった

(5) 8秒ルールにも24秒ルールと同様に継続の考え方が適用されることになった

24秒が継続されるケースでは、8秒も継続される。8秒は審判が独自の責任で数える。

(6) ジャンプ・ボール・シチュエーションのときに同じチームに引き続きボールが与えられる場合は、24秒は継続してはかることになった

(7) プレイヤーのテクニカル・ファウルに対しては2個のフリースローとボールの保持が与えられることになった

コーチのテクニカル・ファウルと同じ罰則になった

(8) 「ファウルをされたように見せかけるために床に倒れる」ことはテクニカル・ファウルの対象になることになった

(9) アンスポーツマンライク・ファウルを2回犯したプレイヤーは、失格・退場となることになった

(10) ゲーム中、チーム・ベンチ・エリアで立ちつづけていて良いのはコーチだけになった

アシスタント・コーチやそれ以外の人は立ちつづけていてはならない

(11) スコアシートに記入するペンの色の使い分けが、今までの逆になった

第1・3ピリオドに起こったことは赤色で、第2・4ピリオド（延長を含む）に起こったことは黒色で記録する。

(12) チャージド・タイム・アウトの時、タイム・キーパーは50秒経過と60秒経過の2回にわたり合図器具を鳴らすことになった

50秒経過したら両チームともゲーム再開の準備をすることには変わらない。

(13) プレイのインタヴァル、ハーフ・タイム及びチャージド・タイム・アウト中に申し出のあった交代に対しては、スコアキーパーは合図器具を鳴らさないことになった

詳しくは、(財)日本バスケットボール協会作成のパンフレット「競技規則の変更点の概略」『『テーブル・オフィシャルズの任務』の変更点の概略』をご覧ください（山口県バスケットボール協会サイト <http://www.yabba-web.com> からダウンロード可能です）